

④ 乳頭状

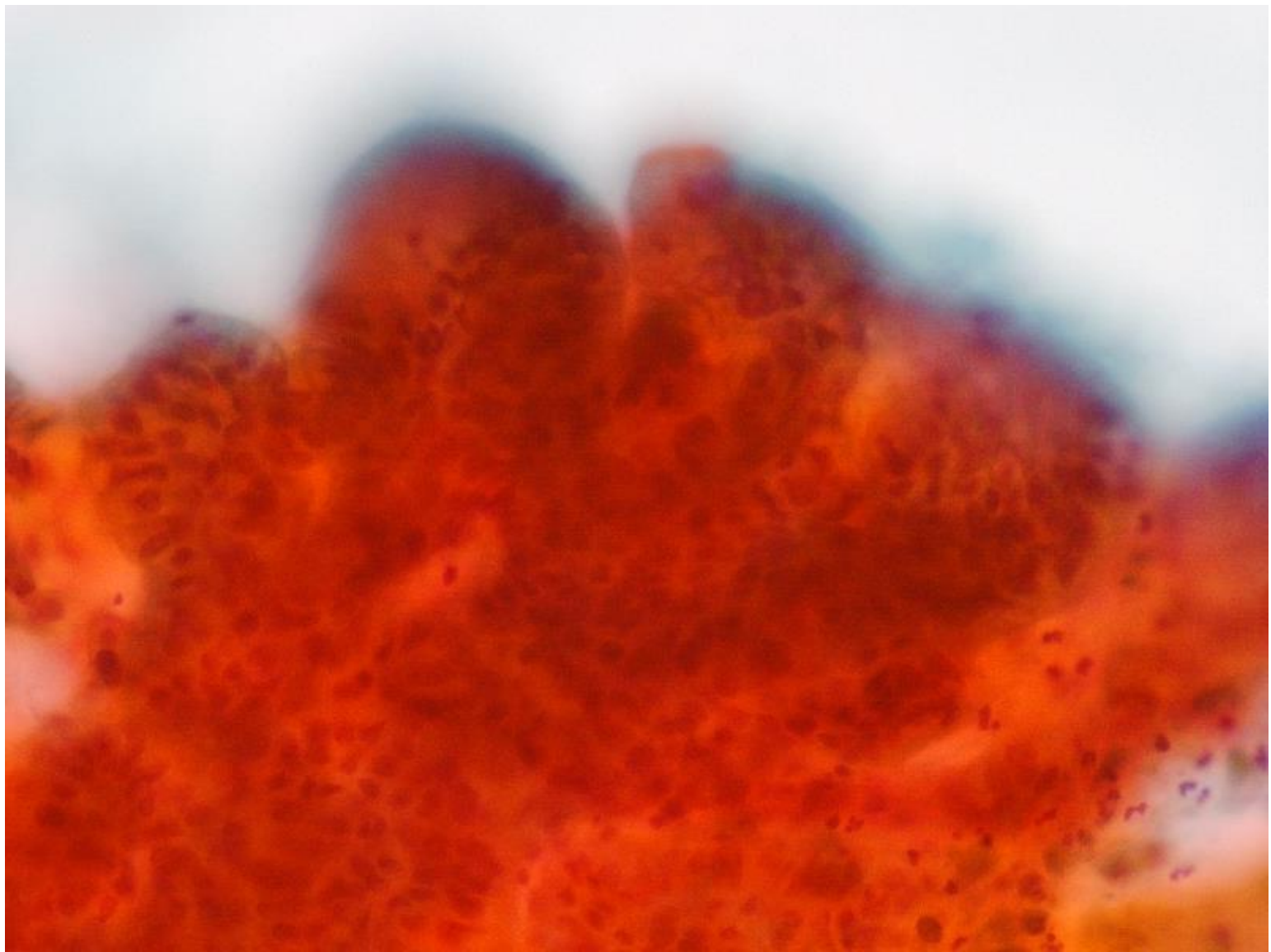
・細胞学的定義

重積性を示す中型から大型細胞集塊で、さらに集塊の一部が辺縁から半島状に突出している。線維血管性の間質軸の有無に関わらない。

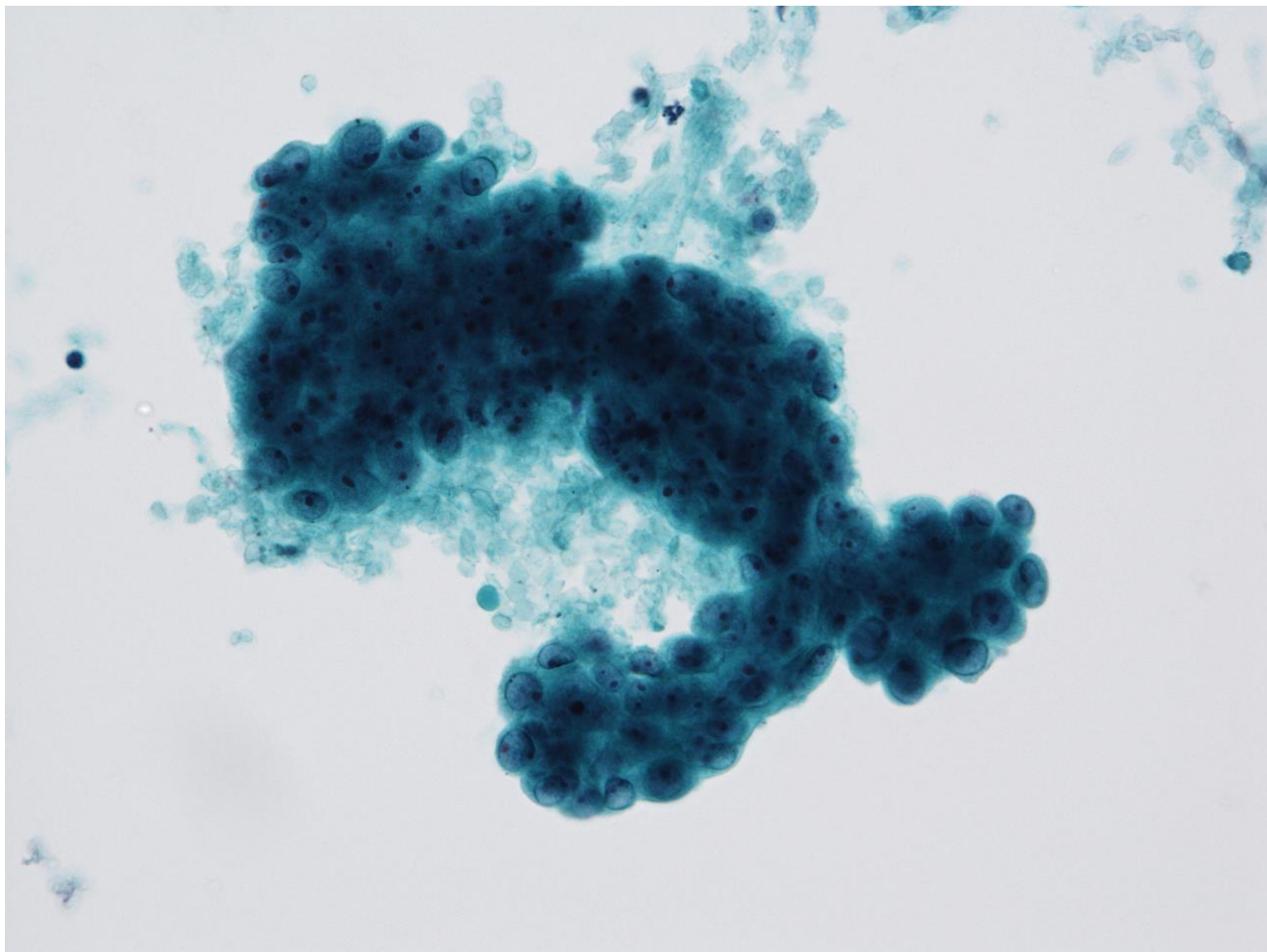
・組織型の推定と補足

組織学的に腺癌では、乳頭状増殖を主体とした浸潤性腺癌に認められる。実際には腫瘍腺管内や肺胞内で腫瘍細胞が積み重なるよう乳頭状に充満する形で増殖している。この時、線維血管性間質の有無に関わらず乳頭状増殖とする。細胞学的に腺癌では線維血管性間質を伴うことは少なく、集塊からの半島状の突出で腺癌と判定することになる。

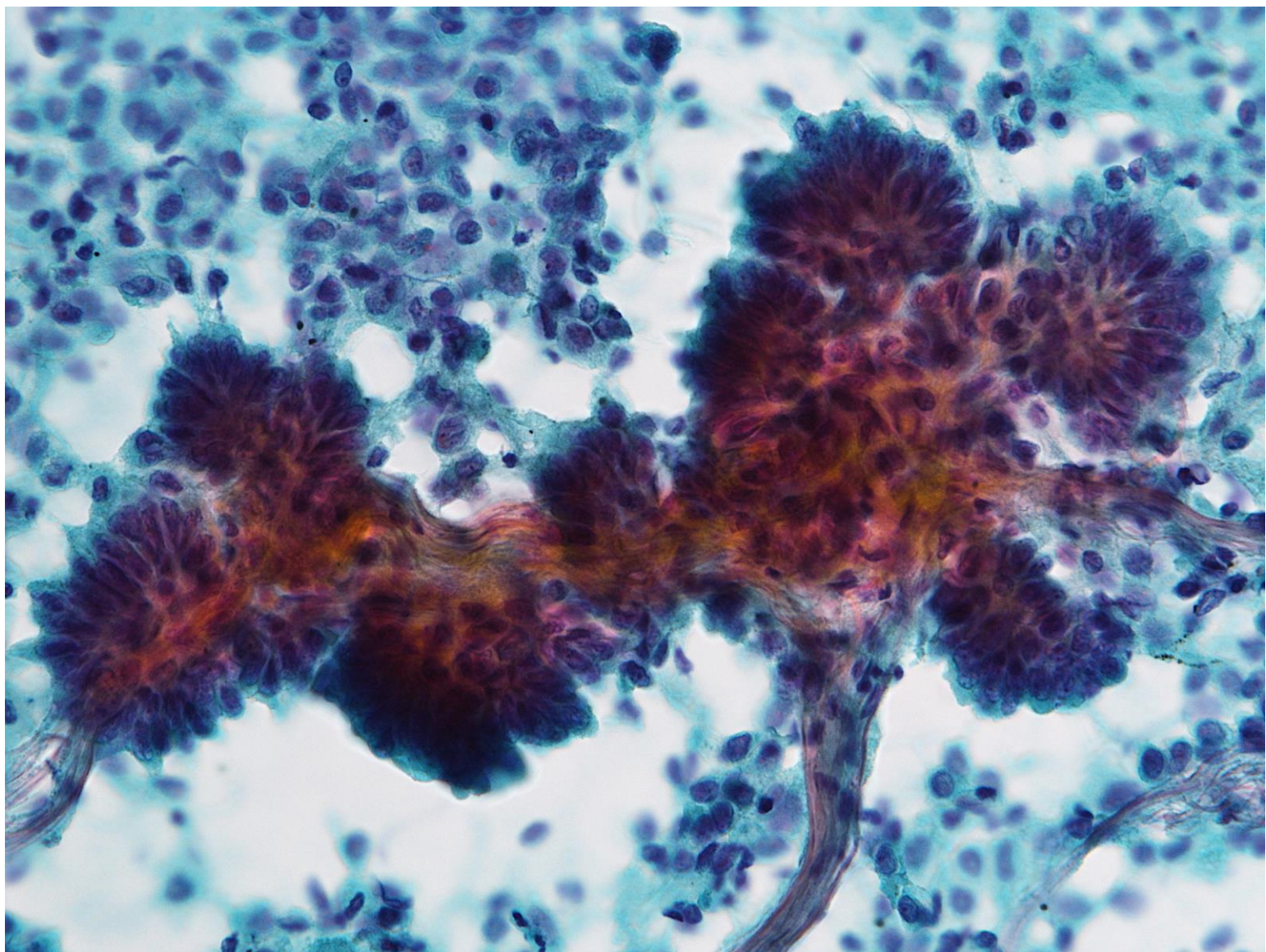
組織学的に扁平上皮癌では、乳頭状増殖を示す扁平上皮癌で見られることがある。しかし、細胞学的に認められる頻度は低い。新鮮な材料中では、大型で立体的な細胞集塊がある場合に、artifactで乳頭状様にみえることがある。



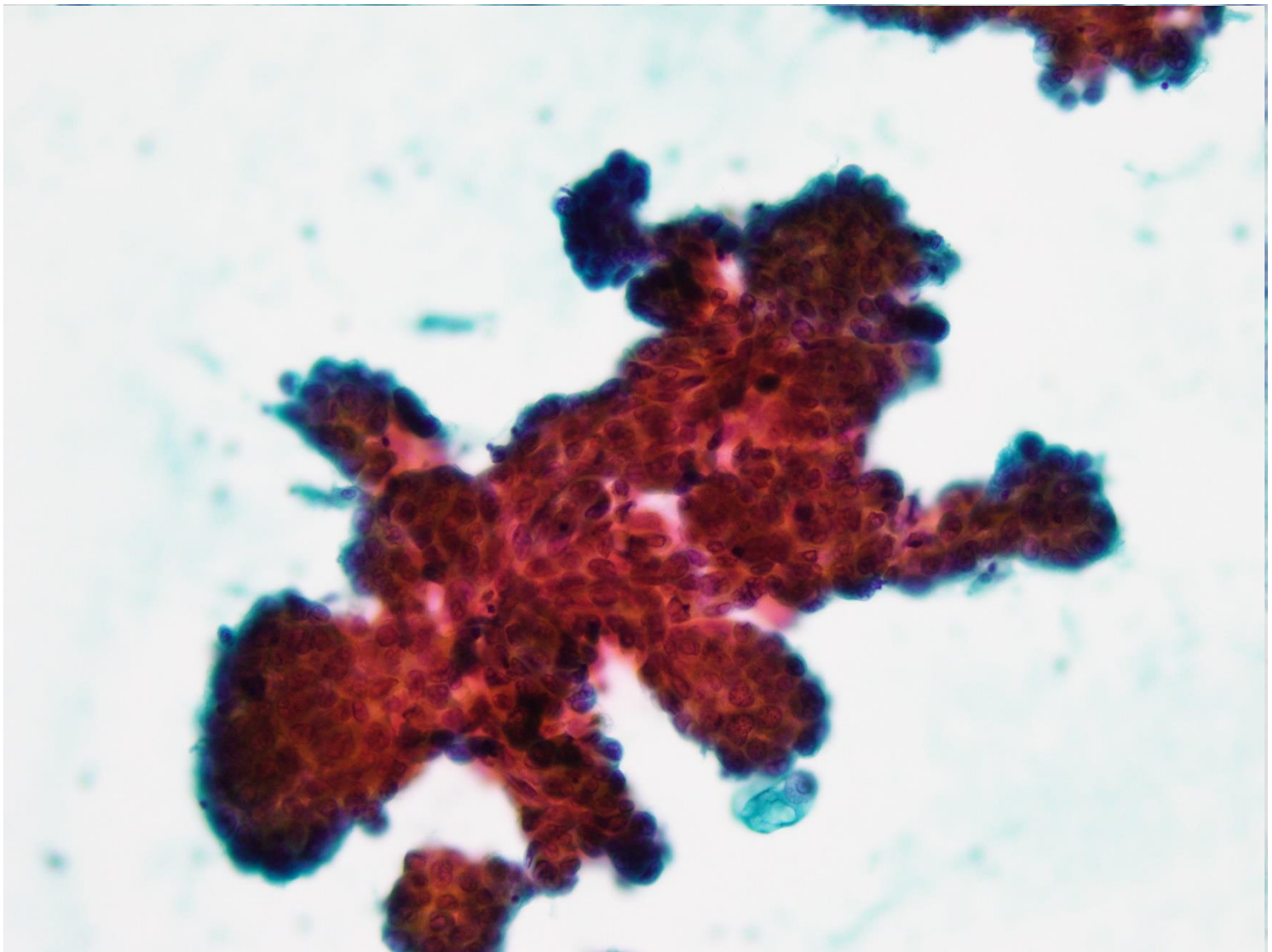
定型例 ④-1 (擦過、腺癌、用語の一致率100%) : 重積性の目立つ大型細胞集塊の周辺部では、半島状に細胞集塊の突出が認められる。乳頭状構造と判定する。



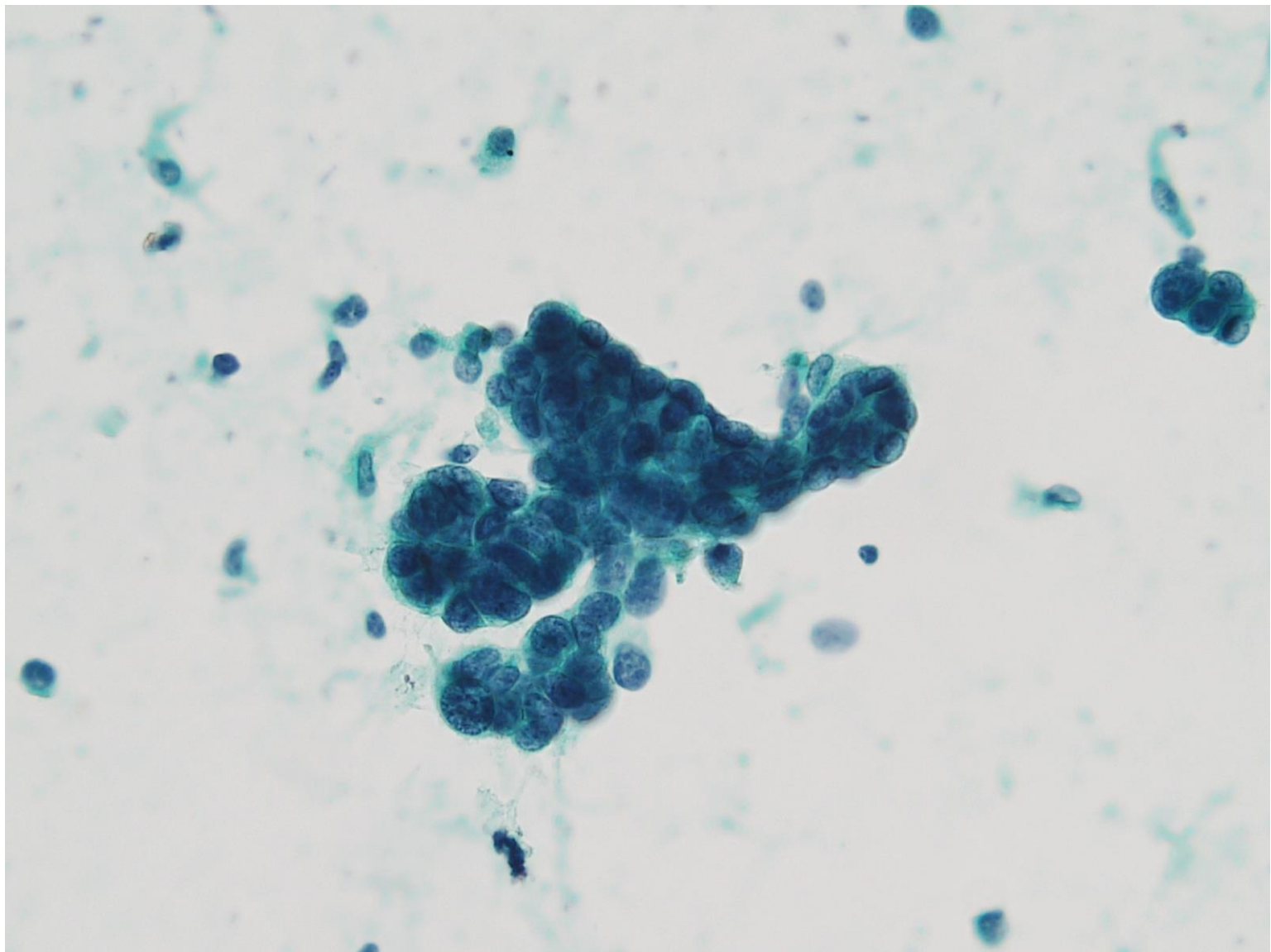
定型例 ④-2 (EBUS-TBNA、腺癌、用語の一致率100%) : 重積性を示す大型細胞集塊であるが、右下の部分で左右に分かれた形で、集塊から半島状に突出している。乳頭状構造と判定する。



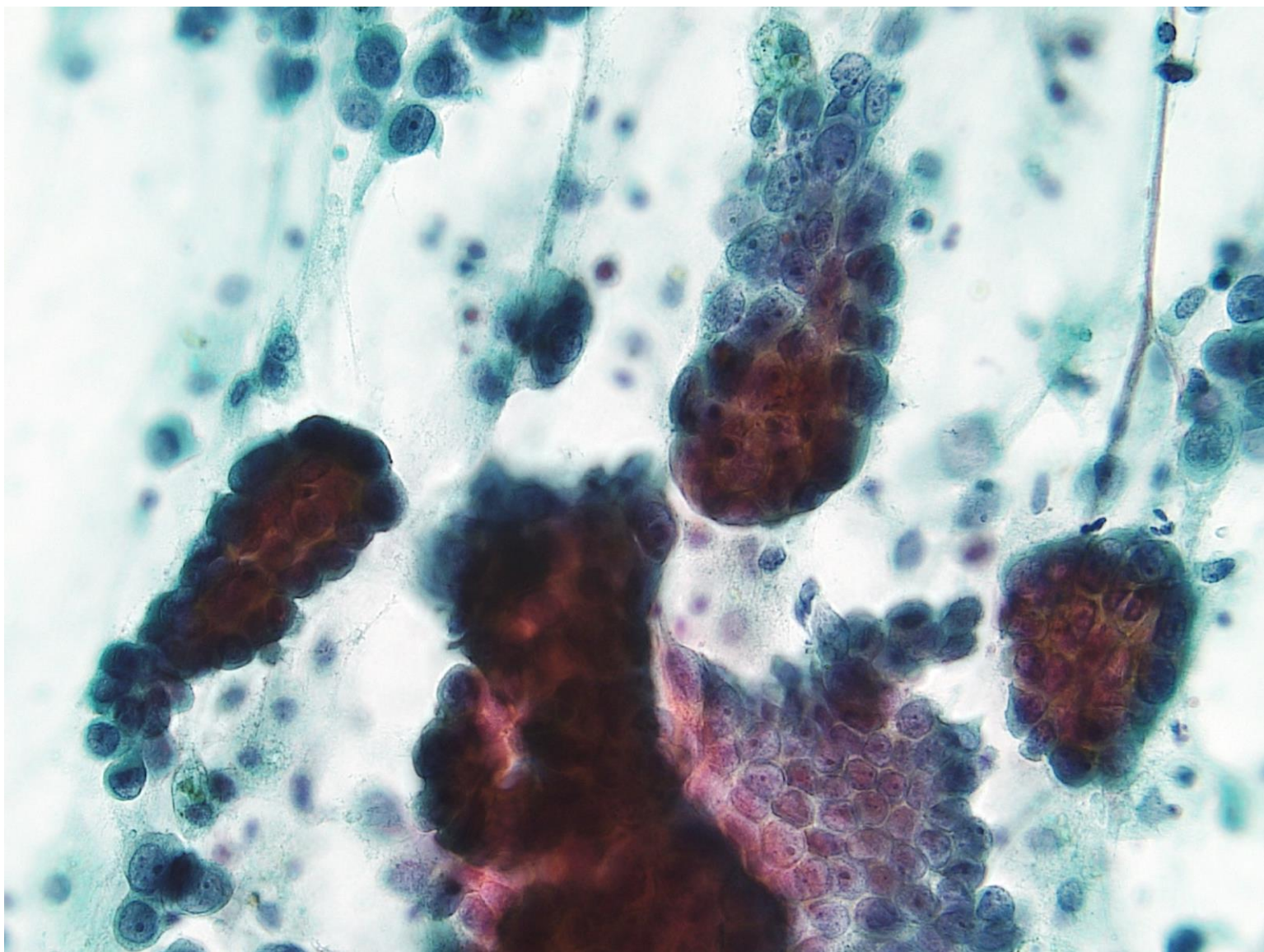
定型例 ④-3(擦過、腺癌、用語の一致率100%): 大型細胞集塊では、集塊辺縁の多数の部位で線香花火が燃えるように、半島状に突出している。また、この乳頭状集塊内では、線維性血管間質を推定するスリット状の血管がみられ、真の乳頭状構造である。いずれも乳頭状構造と判定する。



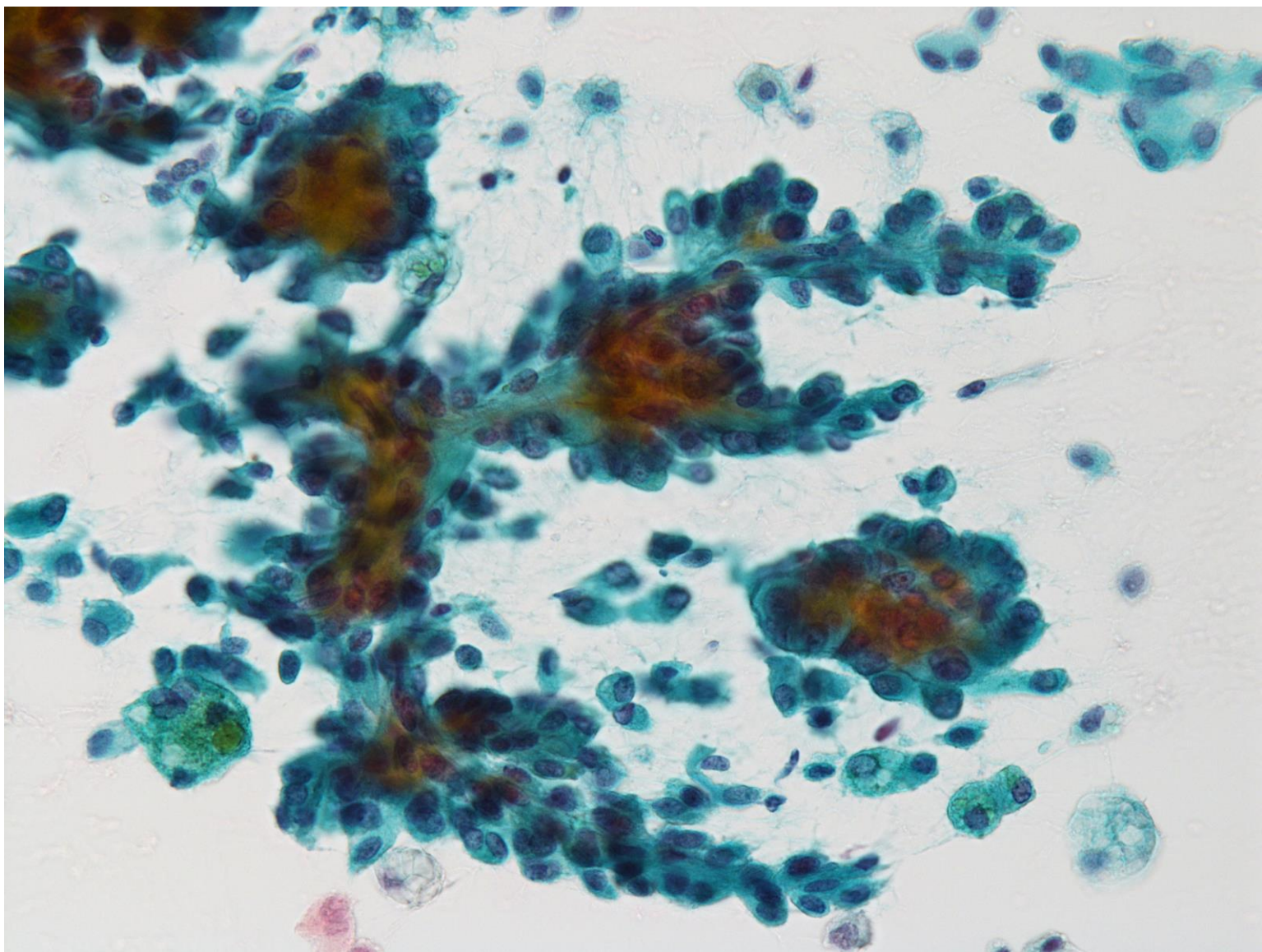
定型例 ④-4 (EBUS-TBNA、腺癌、用語の一致率100%) : 重積性を示す大型細胞集塊がみられ、細胞集塊辺縁部では少なくとも5か所で半島状の突出が認められる。いずれも乳頭状構造と判定する。



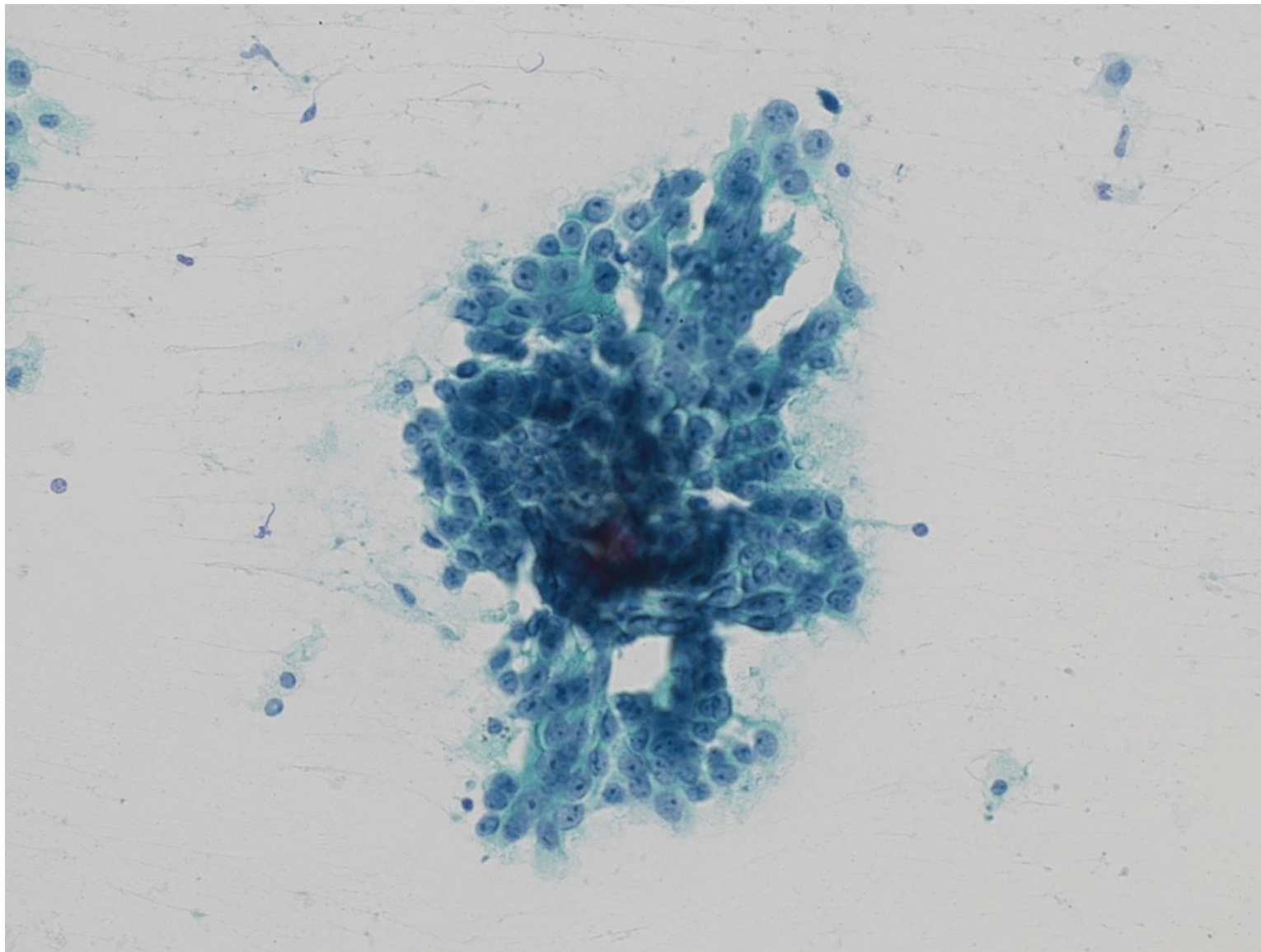
定型例 ④-5 (擦過、腺癌、用語の一致率90%) : 重積性を示す中型細胞集塊がみられる。集塊辺縁では左右に半島状に突出し、左下には島状集塊が認められる。中型細胞集塊でも半島状の突出が明らかであれば、乳頭状構造と判定する。



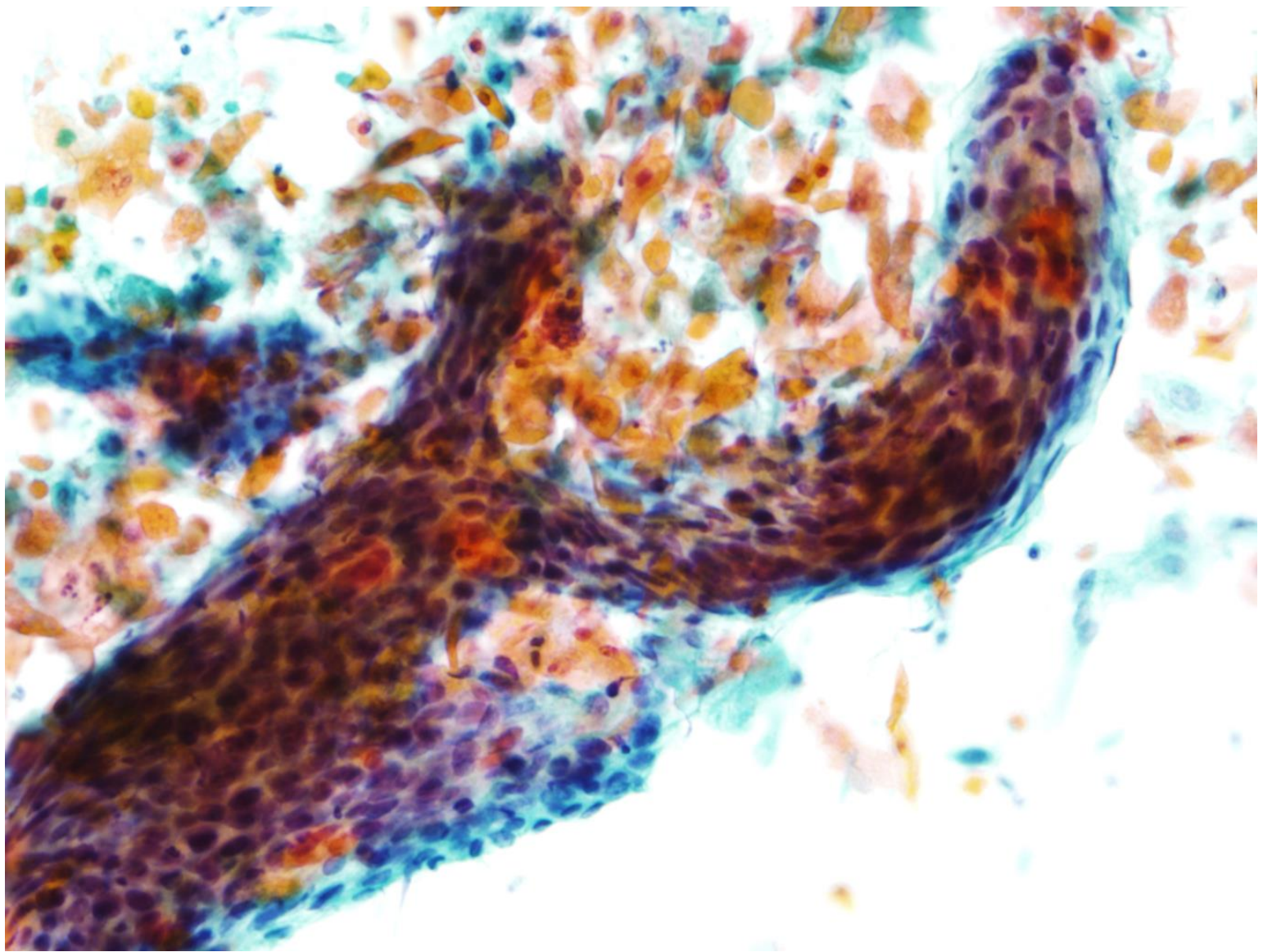
定型例 ④-6 (擦過、腺癌、用語の一致率80%) : 中央部下には大型細胞集塊がみられ、一部半島状の突出が認められる。また、集塊と離れた部位には3か所で島状の細胞集塊がみられる。このような場合も、委員間では乳頭状と判定することにした。



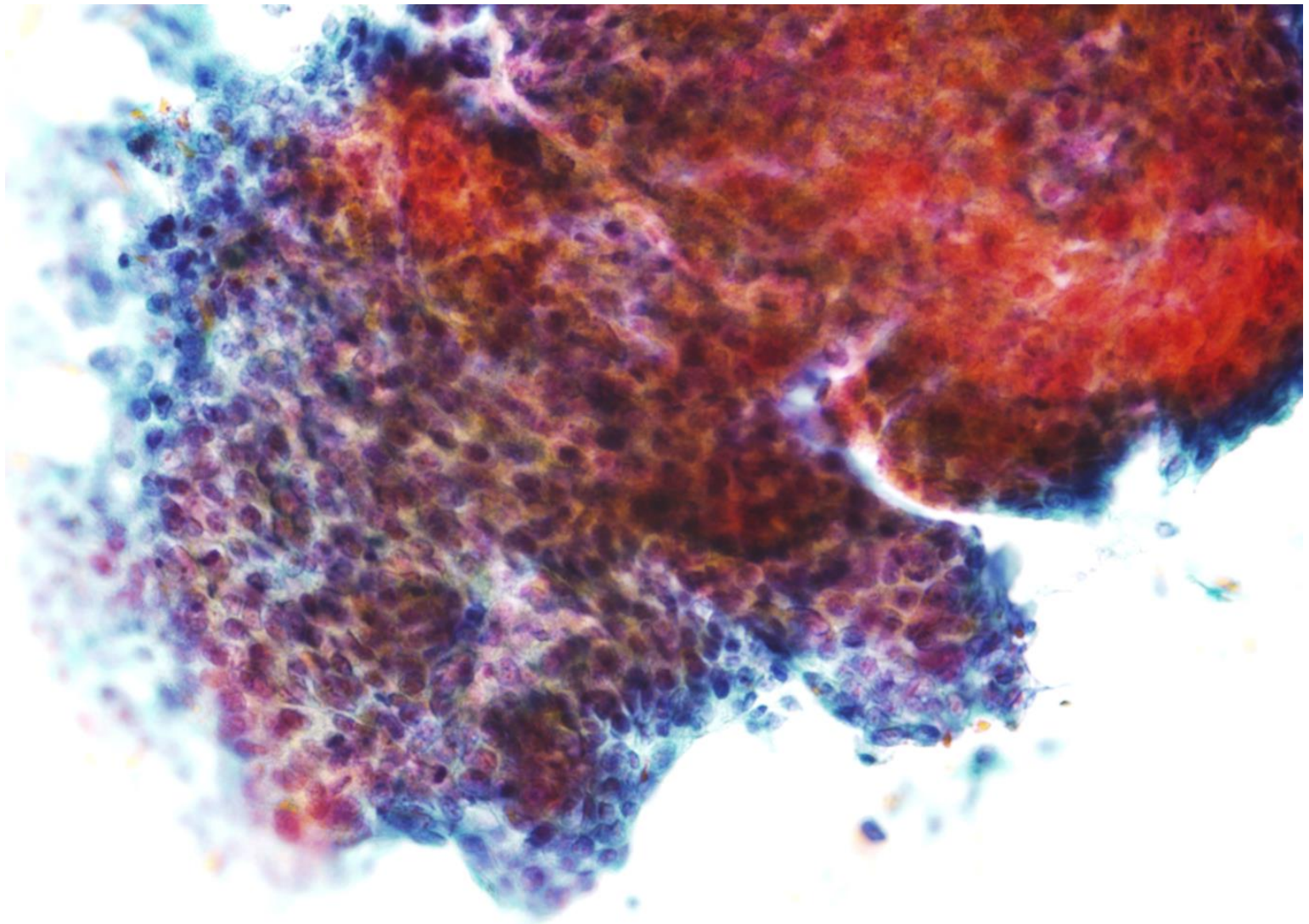
定型例 ④-7 (腫瘍剖面擦過、硬化性肺胞上皮腫、用語の一致率90%) : 大型細胞集塊内では、線維性血管間質をともなう乳頭状構造が多数認められる。腺癌との鑑別が重要で、クロマチンは単調で、細胞異型に乏しく、hemosiderin貪食マクロファージを認める。



④-8(擦過、腺癌、用語の一致率20%): 重積性を示す大型細胞集塊であるが、集塊辺縁部で島状の突出は明瞭でない。そのため乳頭状構造とは言えない。



④-9(擦過、乳頭型扁平上皮癌、用語の一致率40%):大型細胞集塊の右側ではバナナ状の突出が認められる。半島状の突出ではないため、乳頭状とはしない意見が多かった。細胞集塊内では、扁平上皮癌に特徴的な流れ様配列や集塊辺縁の扁平化が認められる。



④-10(擦過、扁平上皮癌、用語の一致率30%):大型細胞集塊の右側では、一見、集塊状の突出があるように見える。しかし、明らかな半島状ではないため、乳頭状構造とはしない意見が多かった。